

第二回トップセミナー

『デザインマネジメント』の組織への導入、実践を通じ企業の独自価値(Only One Value)を創造しよう!』『デザインマネジメント&DAYSセミナー』DAYS2を開催
十二月十七日(火)、第二回目となる『デザインマネジメント』の組織への導入、実践を通じ企業の独自価値(Only One Value)を創造しよう!』を開催しました。

デザインマネジメント3DAYSセミナーDAYS2は、前回と同じくデザインマネジメント専門家の草野紀親氏を講師としてお招きし、『感性価値』がビジネスを創る!』『デザインマネジメント』による企業独自の価値の生み出し方をテーマにご講演いただきました。

当日はソニックシティビル四階市民ホールにて開催し、十九名にご参加いただきました。
◇講演の概要
・直観と感性の時代と言われる理由は、豊かさの基準が変わってきている、相対的にビジネスレベルが上がってきている、急速なAIの進化などが挙げられる。人・モノ・情報が溢れ、ビジネスレベル



講演する草野紀親氏

が頭打ち状態となり、機械でできることが増えることで、「正解」のコモディティ化現象、差別化が生まれにくい時代となっている。
・原点回歸こそ経営進化(イノベーション)へのヒントとなる。古いものが新たな価値を創造する。ゼロからの進化ではなく、事物の螺旋的発展ととらえることが重要である。(ドイツの観念論哲学者ゲオルク・ヘーゲル)
・過去に捨てられていたものがテクノロジーの発展によって脚光を浴びるものとなるかもしれない。(価値の呼び戻し)
・新しい価値をつくるには、人を中心に原点に帰ってみることが最も近道である。
・デザインセンスとは、インプットする感受性としてのセンスと、表現するアウトプットとしてのセンスに分かれる。
・センスをつかさどる定義は、知識と環境に裏打ちされたインプット量・美(倫理観と誠実さ)・楽(応じることのない好奇心)であり、さらにフレキシブルさ、余裕を持つことつまり余白を持つことにより、執着していた事象の固

定観念からの解放が生まれる。
・感じる力を高める場所に行くこと、自分の中の何となくを大切にすること、感じることにとことん向き合う作業をすることにより、五感を磨くことができる。
・中小企業にこそ大手企業にない感性を生み出す独自性が出しやすいため、便利社会となり、差別化しにくい時代に必要不可欠なものは、美意識と感性(センス)の融合である。
・測定できないものは管理できないと考えるのは誤りで、美意識を活かした経営デザインを取り入れるべきである。経営における美意識とは、ビジョンの美意識、行動規範の美意識、経営戦略の美意識、表現の美意識。
・美意識を軸とした経営の二つのモデルとして、アート型人材を経営者自身として捉えて、サイエンス型人材、クラフト型人材を配置するモデルと、経営者がアート型人材を指名して三つの人材を俯瞰してみるモデルがある。
・デザインの根源はコミュニケーションであり、コミュニケーションとデザインはアイコンルである。
・コミュニケーションとデザインの間連性を実感しようということ、コミュニケーションゲームの実施を行った。(ある図形を見た

人が言葉のみで会場内の人に伝えて図形を描くゲーム、映画の一場面の画像を見て言葉のみで会場の人に伝えタイトルを導き出すゲーム、二つの言葉から連想する点を挙げるゲーム)
・未来はファンタジアを実現するために今を積み重ねて創るもので、感性・美意識・アートを融合させ

第三回トップセミナー

『東大教授が教えるやばい日本史』〜人はすごいとやばいできてくる!〜と題して東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏が講演
歴史上の有名人も、みんな欠点を持った普通の人間なのです。普通の人間が歴史を作ってきたのです。したがって、歴史を知る時には、昔の人たちの長所を学ぶと同時に、彼らの欠点、やばい部分も知ることが大切です。そうすることで歴史がぐっと身近なものになります。



講演する本郷和人氏

第三回トップセミナーでは、テレビ番組にも度々出演され、過去五回の講演でも多くの参加者から好評を博した東京大学史料編纂所本郷 和人 教授をお招きし、十二
「正解」の「モティティ化からの脱却を目指しビジネスの創造に繋げる。
・人間の普遍的なものとして、理論的ではなく感情的である、行動を起こすと変化が始まる、習慣の生き物である、自分に合うものは経験でしかわからない、失った感覚を呼び戻す(価値の呼び戻し)を挙げている。
月十九日(木)に大宮ソニックシティ四階市民ホールにて、『東大教授が教えるやばい日本史』〜人はすごいとやばいできてくる!〜と題して、日本の歴史の本当の姿を解説していただきました。当日は三六名の方が参加しました。
講演では、東京一極集中の話から江戸時代の各地域の藩における人材育成の話を導入として、現在の日本社会と比較しながら過去の話へと遡っていきましました。講演内容のメインテーマは「天皇と日本」、日本の歴史の始まりについて、聖徳太子あるいは天皇という名称が使われるようになった七〇〇年頃を画期とする話から始まり、元号の成り立ちについて、律令国家について、建国記念の日の制定について、天皇の継承についてなど、歴